



セントビンセントおよびグレナディーン諸島

Saint Vincent and the Grenadines

2007年9月現在



一般事情

- 1.面積 389平方キロメートル(埼玉県約10分の1)
- 2.人口 12.1万人(2005年 ECLAC)
- 3.首都 キングスタウン
- 4.民族 アフリカ系66.5%、混血19.0%、インド系5.5%、ヨーロッパ系3.5%
- 5.言語 英語
- 6.宗教 英国国教会、カトリック等
- 8.通貨 東カリブドル(EC\$)
為替レート 1米ドル=2.7EC\$ (固定相場制)
補助通貨単位 100セント = CENT/S

9.査証(ビザ)

- 10.在留邦人数 15人(2006年10月)
- 11.在日当該国人数 6人(2006年12月) コンセント・タイプ
- 12.電源 - V - Hz
- 13.国際電話 国番号 1-784 国際通話コード 11
- 14.シガレット 小売価格 - US\$ (20本当り)
税率 - %
製造数量 - (百万本/年)

シガレットメーカー

St Vincent Manufacturing Co Ltd

15.略史

年月	略史
1498年	コロンブスにより「発見」
1783年	英領植民地となる
1958年	英領西インド連邦に加盟(1962年迄)
1969年	英国自治領となる
1979年	独立

- 16.在外大使館・領事館 なし

17.駐日大使館・領事館

在東京セントビンセント及びグレナディーン諸島名誉領事館
Honorary Consulate of St. Vincent and the Grenadines in Tokyo
東京都千代田区麹町1-8-3 半蔵門ハイム6階
電話: 03-3234-4360
(注) 査証については駐日英国大使館が取り扱っています。

政治体制・内政

- 1.政体 立憲君主制
- 2.元首 英国女王エリザベス2世
- 3.議会 一院制(選出議員(15名)と選任議員(6名))
- 4.政府

- (1)首相名 ラルフ・ゴンサルベス
- (2)外相名 ルイス・ストレーカー

5.内政

- (1)独立直後、1979年12月の総選挙で、セントビンセント労働党のケイトー政権が成立。
- (2)1984年7月、繰り上げ選挙で、予想を翻して野党新民主党(NDP)が9議席を獲得。ミッチェル政権が誕生。
- (3)1989年5月の総選挙では、与党NDPが15議席を全て獲得する大勝利。ミッチェル政権は極めて安定。
- (4)1994年2月、総選挙で与党NDPは15議席中12議席を獲得。ミッチェル首相再任。
- (5)1998年6月の総選挙では与党NDPが15議席中8議席を獲得し、かるうじて過半数を抑えた。
- (6)2000年10月にミッチェル首相が引退後、ユースタス蔵相が首相に就任したが、2001年3月の総選挙でNDPは大敗し、統一労働党(ULP)のゴンザルベス党首が首相に任命された。
- (7)2005年12月に総選挙が実施され、ゴンザルベス首相率いるULPが圧勝し、2期目の政権を担うことになった。

外交・国防

1.外交基本方針

- (1)カリブ海諸国及び英国との関係を重視
- (2)カリブ共同体(CARICOM)及び東カリブ諸国機構(OECS)加盟国
- (3)台湾承認国

2.軍勢力

- (1)1996年3月、OECS6カ国及びバルバドスの7カ国の間で域内安全保障システム設置。
- (2)独自の軍隊は持たない。

経済(単位 米ドル)

- 1.主要産業 観光業、農業(バナナ産業)
- 2.名目GDP 428百万米ドル(2005年 IMF)
- 3.一人当たりGDP 4,014.7米ドル(2005年 IMF)
- 4.GDP成長率 3.2%(2002年)、3.4%(2003年)、4.3%(2004年)(IMF)
- 5.インフレ率 (2000年=100)

2002年	2003年	2004年

101.6	101.9	104.9	(IMF)
-------	-------	-------	-------

6.失業率

n.a.

7.総貿易額

- (1)輸出 43.5百万ドル(2005年 IMF)
- (2)輸入 184百万ドル(2005年 IMF)

8.主要貿易品目

- (1)輸出 農産品(バナナ、タロイモ、サツマイモ等)
- (2)輸入 食料品、飲料、一般機械、化学製品、建設資材

9.主要貿易相手国

- (1)輸出 カリコム諸国、EU、米国
- (2)輸入 米国、カリコム諸国、EU

10.通貨

東カリブ・ドル(EC\$)

11.為替レート

1米ドル = 2.7EC\$ (固定相場制)

12.経済概況

伝統農産品バナナの輸出と1980年代半ばから急速に開発が進められている観光業をその柱としている。自然災害、国際価格の変動に大きく影響を受けてきたが、概して安定した成長を維持してきた。1980年に入って、輸出志向工業化を推進し、バナナの品質改良とともに、柑橘類など農産品の多角化に努めている。

しかし、経済成長を支えている要因は、公共投資及び外国からの直接投資であり、経済の安定化を図るため、政府は国内貯蓄の増加を強く奨励している。

2001年の経済成長率は、米国同時多発テロの影響で観光客が減り、0.3%にとどまった。

2005年に砂糖産業を閉鎖し、観光業及び建設業へと経済の多角化を図っている。

経済協力

1.我が国の援助実績(累計)

- (1)有償資金協力(2004年度まで、交換公文ベース) 0
- (2)無償資金協力(2004年度まで、交換公文ベース) 32.41億円
- (3)技術協力実績(2004年度まで、JICAベース) 9.77億円

2.主要援助国(2002年)

- (1)フランス (2)日本 (3)カナダ (4)英国 (5)ドイツ、米国

二国間関係

1.政治関係

1979年10月27日のセントビンセント独立と同時に、我が国は同国を承認。1980年4月15日外交関係開設、1981年より我が方は在トリニダード・トバゴ大使館が兼轄。セントビンセントは駐日大使館未設置。1989年6月駐日名誉領事館設置。

2.経済関係

(1)対日貿易

(イ)貿易額(2005年 財務省貿易統計)

対日輸出 0.02億円

対日輸入 20億円

(ロ)主要品目

対日輸出 電気機械、再輸入品

対日輸入 自動車、船舶、一般機械、輸送機器

(2)我が国からの直接投資

なし

3.文化関係

文化無償協力1件(楽器)(2002年度まで)

4.在留邦人数

15人(2006年10月)

5.在日当該国人数

6人(2006年12月)

6.要人往来

(1)往

年月	要人名
1989年1月	山下徳夫衆議院議員
1992年8月	東力衆議院議員

(2)来

年月	要人名
1986年5月	ミッチェル首相
1987年	ミッチェル首相夫人
1988年11月	デフレイタス貿易・工業・農業相
1989年2月	クリックシャンク通信・公共事業相(大喪の礼)
1990年11月	ミッチェル首相(即位の礼)
1994年5月	ジョーンズ住宅・青年・地方行政・地域社会開発相
2000年11月	クリックシャンク外相(日・カリブ閣僚レベル会合)
2004年3月	ラルフ・ゴンザルベス首相

7.二国間条約・取極

2000年 青年海外協力隊派遣取極